

県外校視察――大阪府、京都府、兵庫県――

1 兵庫県立姫路工業高等学校

「挨拶ができる」「ルールが守れる」「人の話を聞く」の徳育に重点で学校づくりを進めている。・デザイン科ではデザインを通して、ものごとにどう感動させたいか、コミュニケーションなどの体験をもとに、社会で何がやっつけられるかを考えさせることを科の教育目標としている。

- ・デザインのコンセプトを考えることこそ最重要であるとの考えから、調査研究のため に外部へ出かけるようにさせている。
- ・ボランティア活動として近隣の幼稚園に、子ども達が喜ぶ壁画を描いて回っている。
- ・校内ミニギャラリーなど、校内全体を展示場として利用している。

2 大阪府立港南造形高等学校

普通科・美術科・モダンクラフト科の高校から、3年前改編し、総合造形学科の専門高校（5クラス）として出発している。煉瓦ばりのモダンで、広々とした校舎で、2年生からは、美術・工芸・デザイン・造形教養分野を選択するほか、自由選択科目も用意し、生徒個々にあった内容 が用意されている。

- ・生徒の成果は校内展示を中心に進めている。
- ・近隣の街の活性化フォーラムに参加し、モニュメントづくりなどに参加している。
- ・近くの大和川の美しさを取り戻そうとの活動に参加し、陶板で飾る80mの散策道を作っている。

3 大阪市立工芸高等学校

ビジュアルデザイン、映像デザイン、プロダクトデザイン、インテリアデザイン、建築デザインと美術科をもつ伝統ある学校である。特色ある映像デザインには他府県からも入学している。

- ・ものづくりへ向けての情報収集や、制作途中でのグループでのディスカッションを大切にしている。
- ・商店街の地域振興に参加し、ポスターに取り組んでいる。
- ・毎土曜日に、本校OBを講師にして、制作授業やスケッチの指導を行っている。
- ・イタリア体験学習は約30名の参加を得ている。

4 大阪市立デザイン教育研究所

社会にはデザインの仕事が増えているにもかかわらず、高卒の仕事は全くない。その問題点を解決し、生徒の進路を拓く学校をめざしている。

- ・デザイナーをめざして、「その分野しか見ない、勉強しない、それ以外は考えない」教育から脱却を図っている。
- ・企業のプロジェクトにグループで参加させていただいて、学ぶと同時に、生徒の良さも理解していただくことが将来に向けて重要である。
- ・デザインの仕事に必要なのは、完璧な技能よりコミュニケーションの能力であると考えている。

5 兵庫県立龍野実業高等学校デザイン科

町へ出て、地域との連携を図りながら生徒の能動的な活動を引き出し、幅広く総合的に生徒の力を伸ばしていこうとする取り組みが盛んで、実際に生徒自らが企画・運営しての校外活動を各種行なっている。多くは授業とは別の生徒の自主活動で、上級生の活動に下級生が啓発されてそれを引き継ぎ、さらに育ててきたものであるが、高校生の熱意に地域のほうも動かされ、支援の機運が高まり、地元老人会や町内会が動き出して今では町ぐるみの行事にまで発展している。全国に知られる古い町並みの保存や商店街の活性化にも貢献するものとして注目を集めるようになり、昨年度からは龍野市も支援に乗り出した。「ファッションショー」「町じゅう美術館」などを実施している。

6 京都市立伏見工業高等学校産業デザイン科

学校のある地元地域を実際に取り上げてそこにあるデザイン上の課題やデザインすべき対象を見出し、地域の人々との連携のなかで問題解決に向けて具体的な提案を行っていくということを明確に「課題研究」のテーマとして設定し、放課後の校外での生徒の自主活動を多く取り入れながら力のこもった授業展開をしている。平成16年度3年課題研究テーマは「伏見区の観光を考える」で、伏見の観光スポットや地元の商店街に焦点をあて、情報の収集、課題の設定をし、デザイン提案を行なった。情報雑誌「伏見〜る」、観光ポスター、車内吊り広告、伏見の酒のCM、駅の案内マップ、みやげものの商品の包装紙と紙袋、伏見港公園リデザインなど実施デザインは多岐にわたる。

7 京都市立銅駝美術工芸高等学校

国内で最も古い歴史を持つ美術工芸の専門高校であり、ハイレベルな専門教育で全国に知られる。日本画、洋画、彫刻、漆芸、陶芸、染織、デザイン、ファッションアートと八つの専攻分野があり、1年時に希望分野を見極め、2年生から各専攻に分かれて学習する。授業時間が長い(総履修単位数102)上に、放課後も授業の延長のような学習形態をとり、さらに長期の休み中も多くの生徒が自主的に登校して制作を続けるなど徹頭徹尾制作活動に取り組む学校としての性格および生徒の意識、姿勢が際立っている。学習内容が極めてユニークなだけに中学生への情報提供は非常に丁寧で進路選択で誤りがないよう十分な配慮がなされている。また近年、大学との相互交流を深めている。

8 岡山県立興陽高等学校

家政科（人間科学類型・食物科学類型） **被服デザイン科**（デザイン類型・テクニカル類型）

自然に囲まれた広大な敷地の中で、ゆっくりとした時間が流れていると学校であった。校内の随所で先生方が生徒を伸ばそうと考えているのを感じ取ることができた。4～5箇所あるディスプレイはいつも新鮮でなければならないということで、いろいろな思考を凝らしたものになっていた。また、リーフレットや通信もカラー印刷にして生徒や保護者・地域の方・来校者にも配布するそうである。併設する農業科との連携の大切さや普通教科の先生方の協力があるからこそ、専門教育を続けられるということであった。

9 上田安子服飾専門学校

ファッションクリエイター学科・ファッションビジネス学科・ファッション工芸デザイン科

私たち高校の教員間でも言われていることだが、10年前に比べ手先の器用な生徒が少なくなってきたというご意見をいただいた。その一方で色彩感覚やデザイン能力は高くなっているのを感じる人が多いということである。裕福な時代を反映して布や道具を大切に作る心も失われつつあるようだ。また、生徒の中でも目的意識があるかないかの二極化が進んでおり、進路指導も大変のようである。地方出身というハンディはないとのこと。ぜひ本校生徒が入学して、世界を目指してほしいものである。

10 岐阜県立大垣桜高等学校

服飾デザイン科・食物科・生活文化科・福祉科

とにかく家庭科のパワーみなぎる学校であった。校長先生から学校というところは生徒が中心であるべきで、先生方も生徒との時間を大切に応援していく必要があるということである。とにかく先生が元気であること、また先生同士が助け合うことが学校をよくしていくことにつながるのことがわかった。また授業を内容の濃い充実したものにするので生徒は学校への信頼を高め、最終的には生徒指導も必要なくなるのではないか、という教えもいただいた。訪問したときは、夏休み前ということで話し合いの授業が多かったが、生徒も積極的に参加している姿が印象的であった。